

## 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

### 研究テーマ

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

<題材名>

D. 身近な消費生活と環境 「環境に配慮した消費生活」

日	時	令和元年 10 月 21 日(月)
		14:00～14:50
展開学級		3 年 B 組
展開場所		3 年 B 組教室
研究協議		15:05～16:30 図書室

## 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時	令和元年 10 月 21 日 14:00～14:50
展開学級	3 年 B 組
展開場所	3 年 B 組教室

### 1 題材名

D. 身近な消費生活と環境 （4）環境に配慮した消費生活

### 2 題材について

#### (1) 題材観

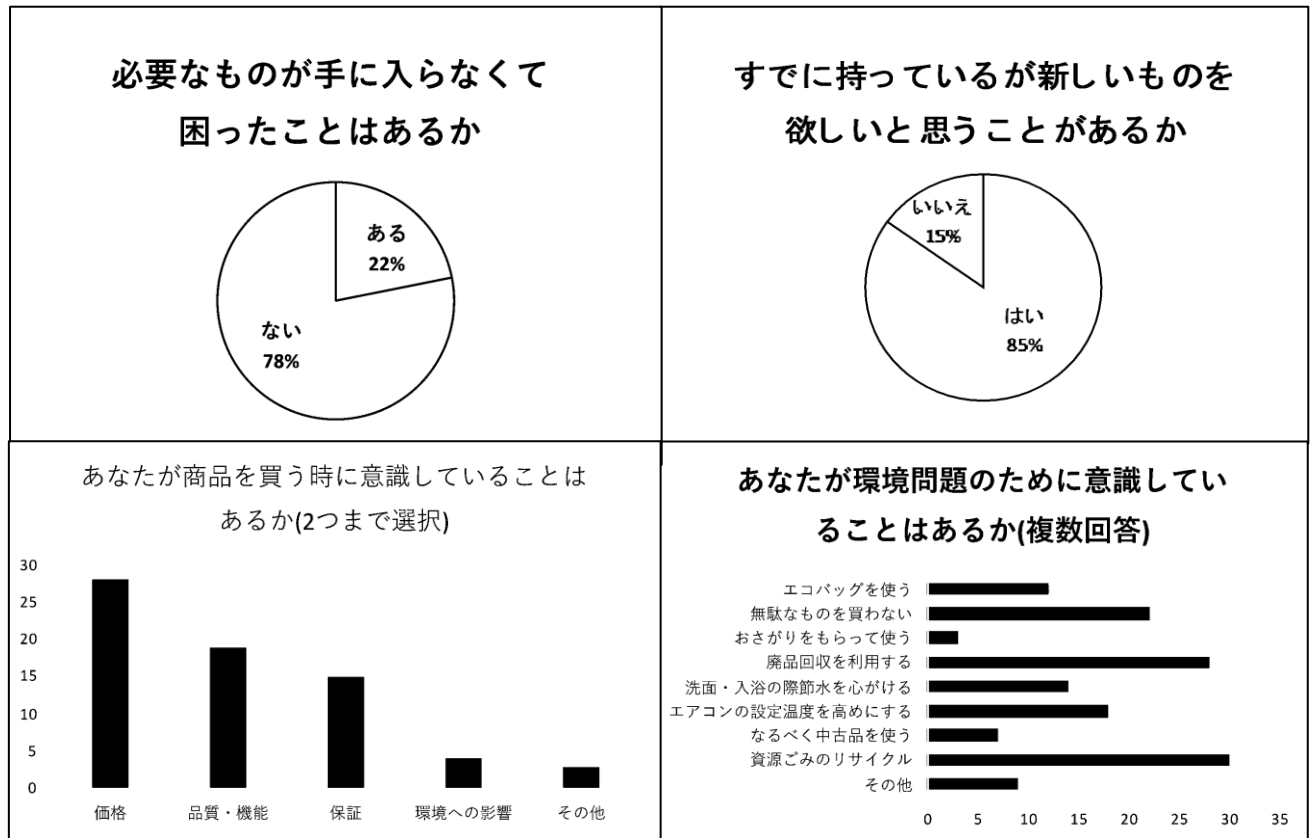
1997 年 12 月、日本では第 3 回気候変動枠組条約締約国会議が開催され、ギリシャでは環境と持続可能性に関する会議が開催された。その中で、現代社会での地球環境やエネルギー・資源消費をめぐる環境問題が山積していることが示されている。それを受け、2002 年の持続可能な開発に関する世界首脳会議では日本から ESD（持続可能な開発のための教育）の提唱があった。その後、2015 年 9 月には国連サミットにより SDGs が示され、いよいよ ESD は現在の学校教育の重要課題とされている。実際、新学習指導要領解説の中にも、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することが明記されている。

持続可能な社会の構築に向けては、特に循環型社会の形成に焦点が絞られた。つまり、廃棄物の適正処理化だけでなく、3R が重要な課題であると言える。環境省の発表によれば、廃棄物の排出量やリサイクル率（排出量に対するリサイクル量の割合）には、最終処分量に関する国全体の目標値を定めている。2020 年度における排出量は 2012 年度比で約 12%削減、リサイクル率は約 27%、そして最終処分量は 2012 年度比で約 14%削減を目指している。このような意識の拡大は、容器包装リサイクル法の施行を受け、各自治体のリサイクルシステムが制度化されたことも大きな要因だろう。

しかし、2009 年度実施の世論調査によると「ごみを少なくするために行なっていることはありますか」の回答ではリサイクルやリフェーズに関する項目は高い回答率を示すが、リユースの取り組みは 12.4%でリペアの取り組みは 36.8%と比較的低い回答率を示す。ここから、3R の中でも取り組みが制度化されたものや、企業努力等でキャンペーン化されているものは定着しているが、使用品を長く使うことや中古品を再使用することにはあまり関心が向いていないと考えられる。この理由には、現代の消費社会を築く経済的な要因が大きいだろう。

持続可能な社会の構築には、消費者一人一人が値段や機能だけでなくその商品のストーリーを推察し生活に最も適切なものを選択することが求められている。廃棄に焦点を当てた循環型社会から派生し、資源の有限性と大量消費社会を関連させる循環的思考を通し、消費が持つ効果や消費者に求められる責任の重さを再認識させる必要があると考えた。

(2) 生徒観 (3年B組 男子17名 女子18名 計35名)



実態調査の結果から、生徒が欲しがらるものや必要なものはすぐに買い与えてくれる家庭の方が多。しかも「すでに持っているが新しいものを欲しいと思うことがあるか」について「はい」と答えた生徒は多く、その項目の多くが「スマートフォン」「ゲーム機」「ファッション」に集まった。こうして大量消費社会の恩恵を享受している一方で、「資源ごみをリサイクルしている」「エアコンの温度を高めにしてしている(節電している)」と回答した生徒も過半数を越え、環境問題への配慮ができる様子も見られる。また、「あなたが商品を買うときに意識していること」を問うと、「価格」「品質・機能」の回答が多く、「環境への影響」はほとんど見られなかった。

ここから、商品を廃棄する際の環境問題への関心と、購入する際のそれには意識に大きな差があることが推測される。2009 年内閣府実施の世論調査において、「物を買うときの環境への配慮意識について、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。」の結果は、「常に意識している」と「習慣になっている」への回答率が29.7%である。しかし、「日常生活における一人一人の行動が環境に大きな影響を及ぼす」との認識は「そう思う」が90%以上を占めていた。本校生徒の実態からも、商品の生産・購入から廃棄にいたるまでの過程と環境への影響を関連づけて学習し、持続可能な社会に向けて個人の消費生活の見直しへのきっかけづくりが必要であることが明らかになった。

### (3) 指導観

ごみの廃棄にかかる諸問題は個人にとっての不利益が見えづらく、ある行動の選択が環境問題への加担になっていることに気づきにくい点がある。特に、地球規模での環境問題は遠く海外の出来事にすぎないように感じる。しかし、グローバルな視点で見るとどの地球環境問題も私たちの生活に密接に関わっており、その対策を講じるべきものである。今後環境問題を教育で取り扱う中で、対症療法的な対策だけではなく、私たちの消費生活が将来的にどのような環境負荷になるかを、生産・活用・廃棄の一連の流れの中で考察することが必要になる。そして、こうした環境問題を他人事ではなく自分の課題とするには、この一連の流れを理解し自身のライフスタイルを見直すことで、主体的行動につなげる必要がある。

普段から授業では、生活との関連性を念頭に置くことを重要視してきた。学校教育と実生活を結びつけるために、時事的なニュースや中学生に身近な SNS やエンタメといったジャンルから授業の題材に話をつなげるようにしている。今回はこうした導入から循環的思考を通して消費行動のもつ様々な環境への負荷を、2つの主張別の意見交換を通して考えたい。3Rは拡大し、循環型社会の実現は一般的になりつつあるが、便利さを追求した低価格の新商品の開発も目まぐるしい。やみくもに環境保全という一つの答えに導くのではなく、あえて現代の消費生活の実態との矛盾に直面させたい。「こうするべきだ」と思考停止状態に陥りやすい視点にゆさぶりをかけることで、生徒の学ぶ姿勢に変化が現れることを期待する。さらには、教師からも再生生産時のコストや再生資源処理時の環境汚染の可能性も示し、「何が正しいのか」という生徒の思いを強めていく。このように教師はファシリテーターとして揺れ動く意見を適切に取り上げる中で、学習目標を深められるような問いかけをし、授業を進めたい。

### 3 題材の目標

消費生活と環境との関連性を理解し、消費生活における生産・活用・廃棄のサイクルには様々な要因が働いていることに気づき、自立した消費者として消費生活を行う実践力を身につける。

### 4 題材の評価規準

生活や技能への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に ついての知識・理解
・自分の消費生活、特に生産や廃棄が環境に与える影響に関心を持っている。	・社会が目指す持続可能な社会の実現に沿うように自分の消費生活を工夫している。		・自分の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身につけている。

5 指導計画（3時間扱い）

時間	学習内容	評価規準
1	<p>環境を優先する生活と便利さを優先する生活、どちらの生活がしたいか考える。</p> <p>・3時間目に意見交換会をすることを伝え、どちらかの立場に立ってプレゼン・質疑応答することを知る。社会の実際と国際的な取り組みを確認し、立場を決める。</p> <p>①リサイクル事業、②ゴミ問題、③大量生産大量消費社会、④ファストファッション等をヒントワードにする。</p>	<p>・個人や家族の消費生活が環境に及ぼす影響を理解している。（知）</p>
2	<p>それぞれの生活の特徴と意見の要点をまとめる。</p> <p>・次時の意見交換会に備え、調査項目ごとに分かれて情報交換を行う。</p> <p>・否定的な意見を予想し、それに対する回答を整理する。また、回答できるように調査する。</p> <p>・それぞれの生活の利点を整理し、自分の意見とする。</p>	<p>・環境に配慮した暮らしの実現のための社会の取組を理解している。（知）</p> <p>・生産や廃棄の際にかかるリスクやコストについて関心をもっている。（関）</p>
3 本時	<p>意見交換を通して生活のあり方を見直す。</p> <p>・調査から発表に至る過程から、生産や廃棄の際に問題が生じることに気付く。</p> <p>・生産、活用、廃棄までを一連の流れで捉える循環的思考で消費生活を見つめ直す。</p> <p>・正しい方法でマナーを守り意見交換を行う。</p>	<p>・持続可能な社会に向けて、個人や家族の消費行動を考え工夫している。（工）</p> <p>・自分の消費生活、特に生産や廃棄が環境に与える影響に関心を持ち、意見を述べている。（関）</p>

6 本時の計画

(1) 小題材

持続可能な社会と消費社会の共存について考える

(2) 本時の目標

自分や家族の消費行動のあり方について考え、個人や社会が取り組むべきことを考え工夫することができる。

(3) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
<p>・自分の消費生活、特に生産や廃棄が環境に与える影響に関心を持ち、意見を述べている。</p>	<p>・持続可能な社会に向けて、個人や家族の消費生活を考え工夫している。</p>		

(4) 本時の展開

学習過程	時配	学習内容	教師の指導と支援	<input type="checkbox"/> 資料 <input checked="" type="checkbox"/> 評価【方法】
課題をつかむ	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を復習する。</li> <li>・本時の課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントを配布する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 学習プリント(1)
		<p style="text-align: center;">意見交換を通して、自分や家族の消費生活について取り組むべきことを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れを理解する。</li> <li>・意見交換のルールを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">           ①発表タイムは全員分確保する。            ②人の意見を遮らないで最後まで聞く。            ③発表タイム後に質問タイムに移る。            ④一人終わったら次の人に移る。            ⑤相手が応えやすいように丁寧に話す。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れを示す。</li> <li>・ルール表を掲示する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> ルール表(模造紙)
追求する	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中で、環境優先派と便利優先派に分かれ、班の中で意見を発表する。</li> </ul> <p>5人×7班設定 1人あたり3分間</p> <p>〈予想される生徒の意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リサイクルが当たり前の世の中になっている。資源の無駄遣いは控えるべきだ。</li> <li>○大量生産のおかげで低価格のものが買える。多くの人の方が安い方を選ぶ。</li> <li>○修学旅行の日は捨てられるようにペットボトルを使った。困った時にすぐに用意することができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞きながら学習プリントにメモをする。</li> <li>・反論や質問を通し意見を深める。</li> </ul> <p>〈予想される生徒の意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リサイクルのために余計にお金がかかることがある。新しいものを買わないと困る会社がある。</li> <li>○安いものは品質が悪く結局高くつくことがある。安いから扱いが雑になって新しいものが欲しくなる。</li> <li>○捨てることを前提にしているが無駄遣いだ。繰り返し使うことで大事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞ける態度を促す。</li> <li>・自身の意見を通してその生活をオススメする様な話し方を助言する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントにメモさせる。</li> <li>・相手の人格を否定することが無いように注意する。</li> <li>・机間指導の際に活動が停滞している班には、「なぜ」を投げかけ助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■消費や環境にかかわる問題に関心を持ち意見を述べているか。(関心)【学習プリント】</li> </ul>

		に扱える。		
深める	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換を経て、改めて自分の意見を学習プリントに記入する。 〈予想される生徒の記述〉</li> <li>○ゴミを問題にしているのは人間の都合だった。</li> <li>○便利な世の中にはたくさんの資源が使われていることを知った。</li> <li>○便利さの裏側にはゴミの問題が潜んでいた。</li> <li>・記入した意見を全体で発表する。</li> <li>・これからの生活であなたや家族ができることは何かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述している生徒にはなぜそう思うのかと深める問いかけをし、記述していない生徒には対話的に生徒の意見を引き出すよう声をかける。</li> <li>・机間指導中に記述ができている生徒に声をかけておく。また、出た意見に対してさらに生徒に問いかけることで、生徒同士の対話を深めさせる。</li> <li>・実生活の中で自分の考えや行動にどう変化を加えたら良いかを考えさせる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 学習プリント(2)
まとめる	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本音と建前のバランス関係に気付かせるような教師の話聞く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">       自分や家族の取り組むべき消費生活について考えられた     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改めてSDGsのことを考え、世界や消費生活全体に関わる包括的な視点の大切さを知る。</li> <li>・今日の授業の取り組みを振り返り、学習プリントに感想を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境優先派と便利優先派で分けて板書する。</li> <li>・SDGsについての資料を掲示する。ソサエティ 5.0 の動画を視聴する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> SDGs 図(模造紙) <input type="checkbox"/> モニター <b>■個人や社会が取り組むべきことを工夫しているか。(工夫・創意)</b> <b>【学習プリント】</b>

(5) 本時の評価

・自分や家族の消費行動のあり方について考え、個人や社会が取り組むべきことを考え工夫することができたか。(工夫し創造する能力)